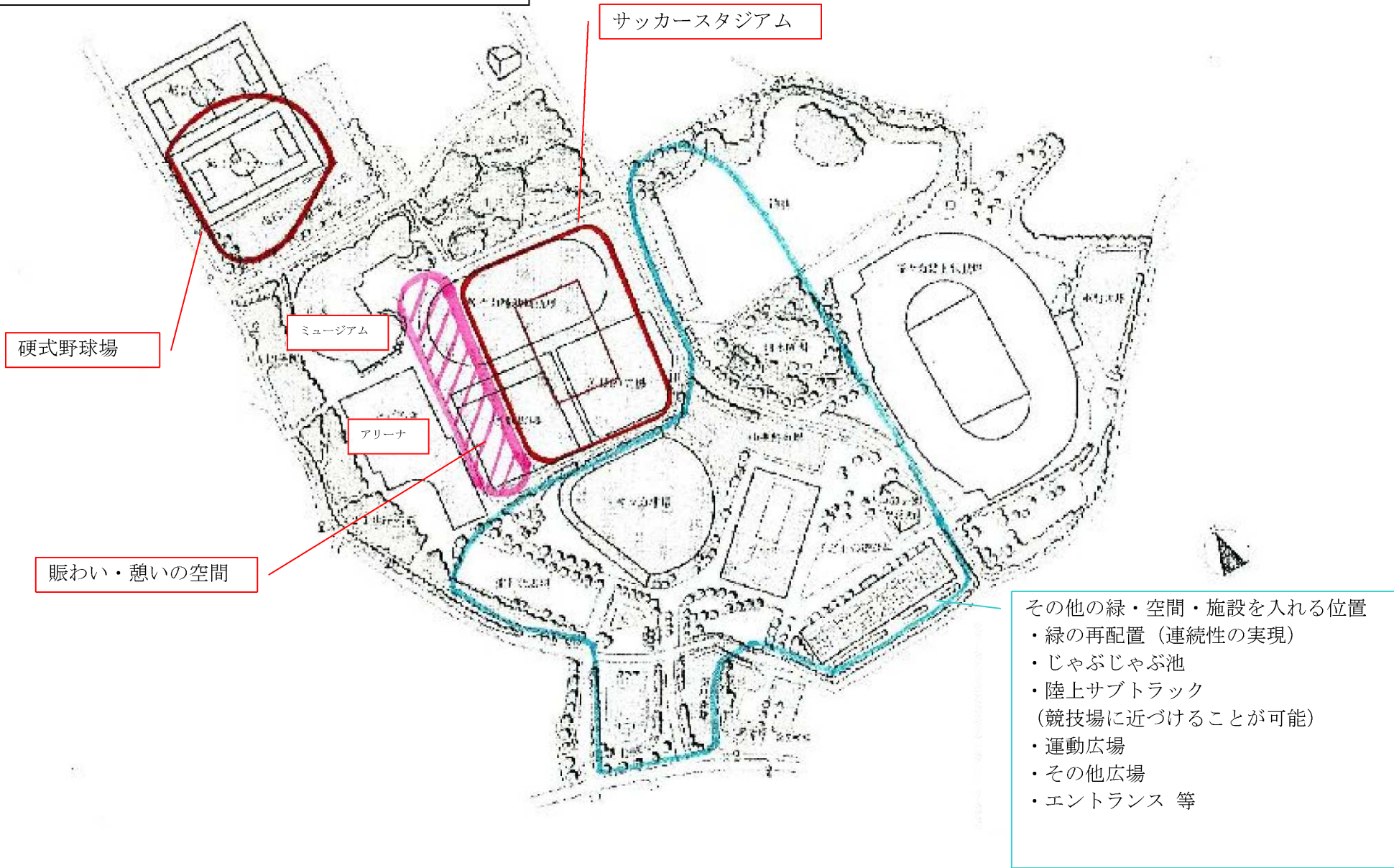


等々力緑地 施設配置案



配置案 コンセプト

[サッカースタジアム]

★市民ミュージアム、とどろきアリーナと連結させた『コネクション・スタジアム』

●緑地内にある「マイナス」の部分で「プラス」を持つ発想。

●ミュージアムとの連結。

- ・現状では十分に生かしきれているとはいえない市民ミュージアムを、スタジアムとの連動性を持たせることによって利用、活性化。
- ・スタジアムでの催事には、スタジアム来場者の休憩所として機能。
- ・スタジアム催事と連携した催事を開催することで利用数増。

●とどろきアリーナとの連結。

- ・スポーツコンプレックス機能を有することができる。
- ・スタジアム催事時にはアリーナも併用してより大きなイベントを開催可能。その逆も同様。
- ・各種スポーツの交流活性化。

●サッカースタジアム、市民ミュージアム、とどろきアリーナの各施設の間に生まれるスペースに「賑わい・憩いの空間」を創設。

- ・欧州の「教会（ランドマーク）と市場（賑わい）」の関係のように、ランドマークたるスタジアムは、すぐ側に賑わいがあることで人々を惹きつけるものになる。人間の心理として、囲まれた空間というのは居心地がよいもの。催事にはそこに各ブース等を設置（もちろん、催事のない日でも賑わいを生めるよう各種の仕掛けをすることが可能）。
- ・市民ミュージアム、アリーナ、スタジアムをデッキ等で連結することも可能。

●「音楽のまち・かわさき」との連結。

- ・スタジアムも含めた3施設で音楽催事の開催が可能。連結させることでより大きな楽しみが生み出せる。
- ・緑地内での音楽練習の騒音問題についても、3施設間の「賑わい・憩いの空間」を練習場所とすれば近隣に音が漏れにくくなる＝音楽練習のメッカ化。

●その他、周辺のイメージアップ

- ・自殺者の多いふるさとの森の周辺に人が賑わえばイメージが変わり、負のイメージが払拭される（自殺者減につながるイメージ）。

[硬式野球場]

●第1、2サッカー場位置に新設。

●内野側をミュージアム側に、外野側を下水処理施設未整備地のほうへ向けて芝生席等の形態にすれば、地下施設への加重負担も軽減。地下施設内に杭（柱）を打てば可能と思われる。

●状況に合わせて増設可能。

[その他]

●陸上サブトラックは本来、陸上競技場の近くにあるべき。それを実現できる。

●釣池の一部をじゃぶじゃぶ池化すると同時に、その周辺を利用してふるさとの森から日本庭園へと続く「緑の連続性」も形成。

●運動広場、催し物広場、サッカー場等をメインエントランス（府中街道側）の前に配置することで、エントランスから入ってすぐ見渡しのいい公園となる。

●駐車場等は地下化（テニスコートの下も検討できる）。

●プールはサッカースタジアムと複合させることも検討できる（プールとアリーナが連結することになり、機能性倍増）。